

平成 22 年度 日 立 市 教 育 研 究 会 先 進 校 等 調 査 派 遣 研 修 報 告 書

日 立 市 立 諏 訪 小 学 校 教 諭 佐 川 容 子

1 派遣期日 平成 22 年 10 月 25 日 (月)

2 研修先 学校名 千葉県習志野市立大久保東小学校
所在地 千葉県習志野市大久保 2-1-2-1

<http://www.nkc.city.narashino.chiba.jp/daitou>

3 研修内容

国語科公開研究会 研究主題 国語科における「考える力」の追究
ー思考の方法を身に付けさせる言語活動の探求ー

(1) 公開授業参観 (1 年生)

单元名 しらべよう「はたらくじどう車」 (23 年度版 教育出版 1 年下)
～はたらくじどう車のつくりやはたらきをしらべよう～

3 学級で 10 時間扱いの第 1 時, 5 時, 9 時と, 单元全体を見通した公開であった。
第 1 時では単元の導入として実際に走る自動車を見に行き, 話し合いをしていた。見てきた自動車を写真で確かめながら, 活発に発言をしていた。第 5 時では自動車の働きやつくり・仕事の仕方を読み取ってサイドラインを引き, ワークシートに書いていた。第 9 時では自分の選んだ物を説明するために各自のワークシートに写真が貼ってあり, それを見ながら書いていた。

(2) 全体会

研究仮説 説明的な文章において, 情報から推論・論証をして「読むこと」「書くこと」の言語活動を行えば, 的確に情報を理解・表現することができ, 考えを深めることができるだろう。

(3) 分科会 (1 年生)

サイドラインを引く部分は, 自分にとって大事・重要なところ。

ワークシートの穴埋めはだめ。読み取ったことにならない。

型を教えて, それを生かす説明。

写真を使って説明する文を書いてもよいが, 説明したい物を自分で絵を描いてもよい。

(4) 講演

学力向上のために 思考活動の充実と可視化ー「言語活動」の充実の課題にこたえて
田近洵一先生 (東京学芸大学名誉教授・前早稲田大学教授)

ア 学力向上のための視点

言語力の向上が, 全教科の学力向上につながる。全教科の学力の向上を図るには, 思考の可視化をはからなければならない。思考の可視化とは, ブラックボックスの中の思考を言語化することである。

話す・聞く活動も, 書くことで, 「場」に流されず, 明確な意識の対象となる。

イ 授業革新のポイント

書くことで読み, 話し合いで深めることを授業の柱とする。書くことの中心は, 「書き換え」=リライト, 「説明」「批評」=コメントである。特に, 「説明」が, 言語力=学習力=学力の向上につながる言語活動の中心である。自分のしたこと, 考えたことを, 文章に書いて説明する活動を, 学習活動として設定するようにしたい。

4 感想

1 年生の児童が, 体験や写真などをもとに自分の考えを活発に発言していた。話し方・聞き方のきまりも参考になった。今まで説明文といえど, 大事な言葉を押さえたり, 読み取った内容をまとめて書いたりというような授業を考えていた。しかし読み取り方を学ぶのではなく構成を考えて自ら読み考えて書くことや根拠のあることを論理的に書くなど, 書くことの大切さを改めて感じた。そこで, 新学習指導要領もふまえて国語科での言語活動だけでなく, 全教科の学力につながるものであることを意識して, 書いて説明する活動を積極的に取り入れていきたい。